

佳作

アレルギーが教えてくれたこと

茨城県 日立市立成沢小学校五年 橋本 千桜

赤くて丸くてつるん。口の中で広がる、ぷちぷちとした食感、みずみずしさは最高！

私はそんなトマトが大好きでした。いつも通りおばあちゃんが採ってくれたトマトを食べていると、のどにい和感が……。今までにはない感覚。それからものどにい和感はずききました。いざ病院へ。家族の心配がてき中、そんな中、トマトアレルギー診断が出ると、悲しさのあまり、帰りの車では涙が出てきました。

生のトマトだけでなく、トマト成分が入っているものは全て食べられなくなっていました。ソーシやおかず、お菓子などにも注意が必要となり、今まで食べられていた給食や外食でも食べられないものが増えました。

最初は、悲しい、悔しい気持ちでいっぱいでしたが、最近はそればかりじゃない気持ちになってき

ました。

学校の給食では、一番に配膳や下膳をさせてもらったり、自分ができない当番活動を友達が補ってくれたり、たくさん助けられています。また、食べられないおかずが出る日には、母が代替食を作って持たせてくれます。朝、忙しい中で作ってくれているので、感謝の気持ちでいっぱいです。

参加する行事等で食事がある時には、必ずアレルギーをチェックして確認してくれる人がいます。母と連絡を取り合い、食べられるものは食べて、無理な場合には、別なものを用意してくれています。たくさんの人達に支えられて、私は安全に食べ、成長することができているんだなあと改めて実感しています。

今年の夏、学校で夏祭りがありました。学校を支えてくれているチームおやじの会が出店する「おやじサンド」。ハム・チーズ・トマトの焼きサンドは絶品です。楽しみにしていました。食べられませんが、悲しい顔をしていると、おやじが、

「もう食べたかい？」

と。私は、

「食べていません。」

と答えました。

「トマトが入っているので。」

とつぶやくと、

「嫌いなのかい？」

と。今までの私は、アレルギーのことは伝えずにその場をやり過ごしてしまったり、静かに残したりしていましたが、今回は勇気を出して、

「トマトアレルギーがあります。」

と伝えました。おやじは、

「わかったよ。」

と言ってその場をはなれました。数分経って、にこにこしたおやじが戻ってきました。手には、あの絶品サンドが。なんと、トマト抜きを作ってくれていたのです。おいしさ・やさしさ・うれしさの詰まった焼きサンド。この味は一生忘れません。

私は、好き嫌いや食べず嫌い、まだ食べられないものがあります。今、私は、支えてくれていて皆さんの存在に改めて気付くことができました。感謝の気持ちを胸に、食べられるものを大切に食べ、アレルギーと共に、強く健康に生きていきたいです。いつか、トマトをもう一度食べられる日を夢見て！